



住北通信

第17号 発行日 R2.11.19

発行者 校長 松下 佳司

大東市立住道北小学校

TEL 872-7788 FAX 872-7789

校内国語科研究会

11月11日(水)に、第2回目の校内国語科研究会を開き、1年2組の八木麻規子先生が授業を公開しました。

詩集「のはらうた」(作:工藤 直子.)を教材に「のはらひろばで『うたまつり』をしよう」という単元を計画し、その単元を貫く言語活動として、詩を音読することと、オリジナルの「のはらうた」を創作するという活動が盛り込まれていました。



6月に入学し、コロナ禍の影響で、学習活動がいろいろと制限されてきたにもかかわらず、1年生の子どもたちは、学ぶことへの興味関心が高く、何事にも意欲的に取り組んできました。

授業は、「ブランコ」という詩の音読から始まり、視写しましたが、最後までよく集中して書けていました。また、各班で練習し発表した音読は、動作化を取り入れるなどかわいい工夫も見られ、素直で瑞々しい感性が伝わってきました。

授業の最後には、「のはら」の仲間になりきって自分の「のはらうた」をつくるという、1年生としては難しい課題でしたが、鉛筆が動き始めていることに驚きました。「書くこと」への基礎体力を着々とつくり上げてこられた成果が表れていました。

書いてみたい、書くて楽しいという意欲を、ますます高めてほしいと期待が膨らみました。



読書ノート 2020年度 前期達成者

5年生の前川 よつ芭 さんが、すでに50冊を達成

しており、前期達成者として住北通信第16号にて紹介

した児童とともに大阪読書推進会に名簿を提出しました。「朝日新聞」と「朝日新聞デジタル」への達成者指名掲載日については、後日連絡が入ります。後期も読書に励んでくださいね。誠に天晴れ!

大東市小中学生弁論大会

11月13日(金)に大東市小中学生弁論大会が開催されました。

5年生の1分間スピーチの部には、5年1組の梶岡 絢海さんが、本校の代表として住道北小学校の素敵を堂々とスピーチしました。

また、4年生による作文展示の部には、4年1組の小泉唯那さんの作文を推薦し、11月23日(月)まで大東市立市民会館1階ロビーに展示されています。

それでは、2人の素敵なスピーチ原稿、展示作文を紹介します。

<1分間スピーチ>

優しい声かけ

5年1組 梶岡 絢海

助け合い。それは、私が、この学校に入学して思った住道北小学校の一番良いところ。

毎日、掃除時間になると、

「バケツ、一緒に持とう。」



こんな声が聞こえてきます。私は、こんな優しい声を聞くと、心が温かくなります。また、私が4年生の頃、算数の苦手な問題で迷っているとき、「わかる?」と声をかけてくれた子がいました。私は、そんな優しい声をかけてくれて、とってもうれしかったです。

ある日、私がクラス全員で遊んでいたとき、ある女の子とぶつかってしまいました。私はその時、泣いていたけれど、私とぶつかった女の子は助けてくれました。

自分もぶつかって痛い思いをしているのに、自分以外の人の心配をしてくれるなんて、とってもうれしかったです。私も、これから困っている人を見かけたら、もっともっと助けてあげたいです。

<作文展示>

わたしのゆめ

4年1組 小泉 唯那

わたしは、将来薬ざい師になりたいです。小さいころに苦しんでいたわたしの体を治してくれた人がいます。わたしにとってはヒーローで、そのような存在として、わたしも人を助けたいと強く思いました。

小さいころ、わたしがかぜをひいた時にお薬屋さんに行くと、わたしのしょうじょうをたしかめて、わたしに合った薬を作ってくれました。わたしは薬をもらう前、薬を作っている様子を待合室で見っていました。

すると、電子レンジのような機械にぬり薬を入れていたのです。わたしは、「薬を温めるのかな」と思いましたが、どうもちがいます。電子レンジのような機械の中で、薬がグルグルと回っていました。それに、とてもびっくりしたことを覚えています。

家に帰って調べてみると、電子レンジではなく、ぬり薬の表面をデコボコから真っすぐにする機械だと知りました。この機会を使わないと、薬の効果がうすくなることが分かりました。他にもたくさんの工夫をして、病気を治す努力をしてくれていると感じました。

薬ざい師は、人をしんどさから解放する、まさにヒーローだと思います。わたしが薬ざい師になったら、病気やけがをしている人達を助けたいと思います。そのためにも今、二つのことをがんばっています。

一つ目は、勉強です。いろいろな資格を取って活やくするためにも、学校の授業を全力で受けています。二つ目は、思いやりをもって行動することです。何かになやんでいたたり、落ちこんでいたりする友達に対して、積極的に声をかけ、はげましていきたいと思います。そして、将来、たくさんの人の心と体をよくしていきたいです。

わたしは、このゆめを決してあきらめず、これからも努力していきます。ヒーローになるまで、応えんしていただきます。

梶岡さんは、住北小の「四つの合い(愛)」の一つである「助け合い」を日々の生活の中で大切にしています。小泉さんは、自らの経験を通して人に役立つための夢を今から描いています。二人の素敵な作文に心が洗われます。

児童集会講話

11月9日(月)に放送で児童集会を行い、次のような内容を子どもたちに話しました。

今日は、誰かのためを思って仕事をするというお話をします。

皆さんには、毎日、いろいろな仕事がありますね。学級では、日直の仕事や係の仕事、給食当番や掃除当番などがあります。5年生、6年生になると委員会活動がありますし、いろいろな行事で特別に仕事をするこも増えてきます。

ところで、皆さんは、自分に割り当てられた仕事をどのような気持ちで行っていますか。時には、面倒だな、さぼりたいと思う時はありませんか。校長先生も子どもの頃、さぼったり、ふざけていたりして先生に叱られたこともあるし、また、逆に、自分から進んで手伝って、褒めていただいたこともあります。その褒めていただいた言葉は、今も心に残っていて、「松下くんが、手伝ってくれて助かった。ありがとう」という終わりの会での褒め言葉でした。(理科の実験の後片付けで、試験管を洗うお手伝いをしたことを鮮明に記憶しています。些細なお手伝いですが…)

学級や学校での仕事というのは、誰かがやらなければなりません。ということは、仕事は、必ず誰かを助けている、誰かの役に立っているということです。せっき、自分が係として、当番として仕事をするのですから、「自分のする仕事は、誰かの役に立っているんだ」、「この仕事をする、誰かが喜ぶんだ」と考えて、仕事をしてみてはいかがでしょう。どんな仕事であっても、その仕事はどこかで必ず周りの誰かとつながっているのです。

日直の仕事や係の仕事、給食当番や掃除当番など、毎日、「誰かのためになっている」ということに気づき、その誰かのためを思って仕事をする、それは、皆さんにとって、より価値のあるものになると思います。

毎日、学校中をきれいに掃除したり、消毒をしたり、壊れたものを直したり、また、登下校時に東門や正門で、安全指導などをして下さっている校務員さん方にも、「ありがとうございます」とお礼を述べている子を見かけるようになりました。仕事を見直すきっかけになれば嬉しいです。